

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

昔の人々は、不思議な自然現象を理解する手段として、人格を有した神々を生み出した。神々の喜怒哀楽が豊穰や災厄などをもたらすと考え、場合によっては、神々への信仰によってこれらをコントロールしようとした。自然現象のメカニズムが知られていなかった時代には、信仰に基づいた儀式が「最先端の科学」として尊重された。

たとえば、世界各地の①神話や伝承に雷神が登場する。ゴロゴロと音が鳴り、ピカッと光り、地上に落ちて来る雷は、今も昔も恐ろしい自然現象である。その雷が発生する原因を昔の人々は雷神の仕業とした。雷が激しいときは、雷神が怒り狂っているからに違いないと考え、その怒りを鎮める儀式を執り行うこともあった。

現代に生きる我々は、②雷が雲や地面の間で起こる放電現象であることを知っている。そのため、雷神を信じない。雷神に限らず、神々が自然現象を引き起こすという話をばかばかしいデタラメだと思いがちである。

問一、傍線部①「神話や伝承」とあるが、現代人は神話や伝承をどのように評価することができるか。本文中から十字で抜き出さない。

問二、傍線部②「雷」とあるが、昔の人々は雷が発生する理由をどう考えたか。本文中から十五字以内で抜き出さない。

解答欄

問一


問二
